

第 15 回 (2022 年度) 経営者「環境力」大賞

2022 年度も「経営者『環境力』大賞」の募集を行いました。審査の結果、大賞 4 名、奨励賞 1 名の受賞が決定し、2023 年 2 月 17 日に 2022 年度「経営者」環境力大賞顕彰式をホテルグランドヒルズ市ヶ谷にてオンライン併用で行いました。今月号では、受賞者及び受賞理由についてご紹介します。

【大賞 受賞者】

氏名	会社名・業種
浅沼 晃 (理事長)	盛岡信用金庫 (岩手県盛岡市)
	金融・保険業(融資商品、預金商品、為替ほか、お客さまの課題解決に資する金融サービス)
尾島 敏也 (代表取締役)	斉藤商事株式会社 (埼玉県富士見市)
	卸売・小売業(ユニフォーム及びスポーツウェア等繊維製品の企画、製造、卸し及び小売り)
畑元 浩 (代表取締役)	株式会社スイシン (群馬県高崎市)
	建設業(水処理装置設計施工メンテナンス、熱回収装置の製造販売)
吉本 英代 (代表取締役)	株式会社ゆいわーく (東京都杉並区)
	金融・保険業 (生命保険/損害保険の募集および媒介業務、安全運転講習会の開催、家事代行サービス、電動車いす販売、家族信託)

(敬称省略、五十音順)

【奨励賞 受賞者】

氏名	会社名・業種
中村 慎一郎 (代表取締役)	株式会社日精ピーアール (東京都千代田区)
	印刷業(商業印刷、企画デザイン、Web 制作、イベント支援)

【授賞理由】 大賞

盛岡信用金庫 理事長

浅沼 晃 (あさぬま あきら) 氏

明治 36 年に、「地域に根ざし、地域とともに発展する」という精神のもとに設立された信用金庫。優れている点は、

- ・理事長就任後はいち早く環境問題の重要性に気づき、金融庁が気候変動に取り組む前から、気候変動問題、特に再生可能エネルギーの普及に取り組んでいる点。
- ・例えば、岩手県は 77% が森林という豊かな自然資源に恵まれた土地柄で、寒い冬は暖房を化石燃料に依存しており、海外にお金が出流しては地域が潤わないという問題意識から、地域資源である木質バイオマス

の導入を積極的に進めた点。

- ・再エネや循環経済に先進的に取り組む葛巻町庁舎内に支店も設置したり、バイオマス導入に取り組む紫波町 (しわちょう) の燃料供給体制確立に向け「紫波企業の森づくり」を行うなど本業で地域支援を行っている点。
- ・取組の背景に、気候変動と地域経済の解決には、「エネルギーの効率的利用」「地域資源の活用」「お金の地域循環」が必要という環境と経済を一体化しようとする意志を持ち、社会的課題であり地域課題でもある気候変動問題の解決に、地域とともに取り組む「実行力」がある点。
- ・「盛岡起業ファンド」や「盛岡 SDGs ファ

ンド」などで起業家に対する経営サポート、「もりしん懇談会」の運営など、地域の経済活性化だけでなく、歴史ある盛岡の伝統・文化の伝承に務めている点。

- ・事業対象を拡大する一方、店舗数は増やさず、県外には支店を置かないなど、相互扶助の精神のもとで事業を行う信金として、身の丈にあった規模を維持しつつ、リスクにも対応できるよう心掛けている点。

齊藤商事株式会社 代表取締役

尾島 敏也（おじま としや）氏

ユニフォーム、制服、スポーツウェア等繊維製品の企画・販売を行う総合商社。優れている点は、

- ・ISOへの取組が社員教育の一環にもなり、地域社会や家族にもいい影響を与えると考え、いち早くISO14001を取得した点。
- ・洋服のリサイクル RINGの取組（使用済みのユニフォームを回収し、分別して、ポリエステルからポリエステルに再生、ポリエステル以外は代替エネルギーなどに利用する活動）にいち早く参加し、サステナブルユニフォームとして、廃棄物100%の再資源化を目指すとともに、このプロセスでのCO₂削減に努めてきた点。
- ・価格の高いエコ商品の良さを丁寧に説明することで、販売先を増やし、カーボンオフセットユニフォームの販売を通じて取引先とともにカーボンオフセットとして森林保護やCO₂排出削減といった環境保全活動を行っている点。
- ・従業員の多くは女性で、一人ひとりが働くことの価値を見出せるような支援として、資格取得や働き方も子ども優先の働き方をバックアップしている点。
- ・利益重視ではなくサービス重視の経営を目

指し、「知る人ぞ知る」会社として、従業員とともにサービスの深さで独自性を打ち出して企業価値を上げている点。

- ・顧客や仕入れ先に限らず、地域・社会、従業員もすべてステークホルダーと捉え、地域清掃活動やチャリティーバーゲンなどでコミュニケーションの場を作り、そこから得た情報や評価を事業活動に反映させる地道な努力を重ね、信頼の獲得に努めている点。

株式会社スイシン 代表取締役

畑元 浩（はたもと ひろし）氏

水処理装置の設計・施工・メンテナンスを行う会社。最近は、これからの時代は脱炭素や排水処理に伴う資源回収が重要との認識から、食品工場やクリーニング工場からの温排水に含まれる熱エネルギーを回収・利用する熱回収装置の自社開発、販売を行っている。優れている点は、

- ・水処理技術とエネルギー・資源の回収技術で、今より衛生的で快適な100年先を作るという目標を立て、SDGsにも数値目標を設定した上で積極的に取り組んでいる点。
- ・効率性やコスト削減といった目的ではなく、様々な企業がそれぞれの個性と特性を生かすことで単独企業では成し得ない成果を生み出すという考え方で、例えば、ゆで麺機の90℃の温排水を再利用し、ゆで麺機に加える補給水の温度を上昇させることで燃料費を30%削減し、CO₂排出抑制に貢献するなど、他社との協働を積極的に進め、社会への責任を果たそうとしている点。
- ・会社を大きくするために利益だけを追求する時代ではなく、会社やその技術が社会に認められて自然に大きくなるという考え方のもと、ほぼ全員が技術者という中で、社

員一人ひとりが働くことの価値を認識し、技術的にも人間的にも成長し、社会への貢献と安定した暮らしが得られるよう、適正規模の効率的な経営に徹している点。

※審査会からは、環境にいい製品を作るだけでなく、水処理という狭い分野での事業を、どのように社会課題への対応に広げていくかという観点からの取組を期待しているという意見があった。

株式会社ゆいわく 代表取締役

吉本 英代（よしもと ひでよ）氏

生命保険・損害保険の募集・媒介業務、リスクマネジメント等に伴うアドバイス業務、家事代行サービスなどを行う会社。優れていた点は、

- ・奄美・徳之島への来島者やふるさと納税を増やし、将来は島の法人税が増える仕組みを考えたり、電動車いすを地元の高齢者や障害者に寄付したり、徳之島フェアなどを通じて農産物を販売し農繁期には現地に社員を派遣し農業実習を行うなど、地域社会との交流や貢献を大切にし、地元の伝統・文化を継承しようとしている点。
- ・大人に混じって子どもたちがジャガイモの収穫の手伝いをし、それを首都圏4か所の子ども食堂に寄付するなど、奄美・徳之島と都会を継ぐ活動を次世代とともにやっている点。
- ・デジタル化をうまく活用して、全社員の営業プロセス・成績を共有・定量評価するこ

とで、社員の意欲向上を促し気づきを与えるなど、業務の効率化を図りつつ、個々の社員の成長を促している点。

- ・本店、徳之島支店、奄美支店の3店舗で、社内システムの効率化により生産性を向上させ、二万件ほどの顧客を50人ほどの従業員で運用している点。
- ・地元の有機肥料を使った柑橘類の生産事業を展開したり、奄美・徳之島の自然保護活動にも日常的にかかわるなど、地域再生と社会課題の解決に取り組む姿勢は広い意味での環境力を発揮している点。

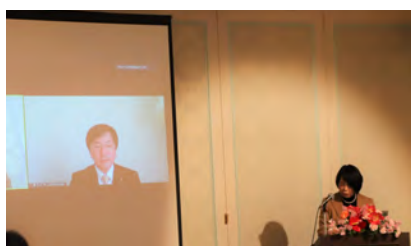
※審査会からは、Sustainabilityの実践に加え、脱炭素の認識を、顧客を巻き込んでアピールして広げていく努力を期待しているという意見があった。

【授賞理由】奨励賞

株式会社日精ピーアール 代表取締役

中村 慎一郎（なかむら しんいちろう）氏

本業である印刷業において、基本的な環境対策はほぼ実施されている点や、特に水なし印刷をいち早く導入した点は評価できる。しかし所在地の千代田区がゼロエミを推進しScope3のCO₂削減を進めている中、脱炭素への取組がやや遅れている点が残念である。今後は、若手経営者として、奨励賞をキッカケに、ゼロエミッション、脱炭素への取組をより積極的に進めてほしい。



オンライン参加の受賞者様紹介の様子



会場参加の受賞者様紹介の様子

※受賞者の皆様の発表内容やお写真については次号でご紹介します。